第１２号

『パッカン』

Ｒ４．10．19

先日の校内研修会のテーマは「ＩＣＴ活用」。新型の実物投影機が配置されたことを機に活用研修を行いました。

その時に私が紹介したのが、自分が教職７年目の勤務校で作成された「校内研修実践例集」です。たまたま自宅で見つけ、その一端を披露しました。

１人１ページを担当し、それぞれ板書例が示してあります。自分が執筆したページには、班ごとにブタの内臓を観察した結果を「紙」にスケッチし、並べて貼る板書例が描かれています。今は、マグネット付きのホワイトボードがありますが、当時はいらなくなったポスターやカレンダーを持参させ、その裏に油性ペンで描かせていました。「ＯＨＰ（オーバーヘッドプロジェクター）では、一度にたくさんの意見を見ることができない。」と、「紙」を活用した理由を説明しています。それまで生徒の考えを共有するときは、生徒のノートを機械に入れ、フィルムシートに熱転写して、ＯＨＰで投影して見せていました。「パッカン」とは、その熱転写の機械のこと。転写するときにストロボが光り、「パン」と音がするので、自分は勝手にその機械のことをそう呼んでいました。

最も紹介したかったのは、実践例集に書かれていた「今後の課題」です。「今後は、生徒の意見を生かす方法の一つとして、コンピューターの利用を考えていきたい。実験結果をコンピューターでグラフ化したり、生徒の意見を集計したりして、それをもとに話し合いを進めていきたい。」と書かれていました。パーソナルコンピューターが少しずつ普及し始めた頃の話です。

それから丁度３０年。当時の「課題」はもはや課題ではありません。しかし、ここに辿り着くまで、試行錯誤あり、紆余曲折あり。今から３０年後はどうなっているのでしょうか。

ちなみにさらにその２０年ほど前、中学校国語教員だった父は、鉄筆を使ってロウ原紙にガリガリと字を書いていたのを思い出します。いわゆるガリ版印刷です。

校舎周辺のサクラが紅葉し始めました。